院内広報誌 AUTUMN

こころの虹

か・け・は・し

OIKAWA HOSPITAL INFORMATION KOKORO no KAKEHASHI

♥ホームページ URL http://www.oikawahp.net ♥Eメール address info@oikawahp.net

編集・発行
医療法人 にゅうわ会
及川病院
〒810-0014
福岡市中央区平尾2丁目21-16
TEL 092-522-5411

No. 24 2011年11月 発行

患者様の権利と義務

患者様には「ご自身が生命の主人公」として、医療従事者とのよりよい人間関係を築いていけますよう以下の「守られていること」「守っていただきたいこと」があります。

人 格 権
患者様は個人としての人格、価値観などを尊重されます。

受 療 権
いつでも必要かつ十分な医療サービスを受けるために、医療機関を選択する権利があります。

知 る 権 利
病名、病状、診療計画、検査・手術、薬、必要な費用などについて、納得できるまで説明を受ける権利があります。
同時に、私たちに既往歴、現病歴、現在の治療内容、アレルギー歴など健康に関する情報を正確にお伝えください。

自己決定権
十分な説明を受け、理解した上で、提案された診療計画などを自らの意志で決める権利があります。
同時に、それらの内容に関する指示を守る義務があります。
納得できない場合は、他の医師や医療機関の意見を求めることができます。

プライバシーに関する権利
個人の秘密や医療に関する個人情報が守られ、私的なことにみだりに干渉されない権利があります。

参加する権利
診療内容や病院の運営につき苦情や意見を述べ、医療改善の活動に参加する権利があります。安全性を高めるためお名前の確認などにご協力ください。

10月はピンクリボン月間。今年も検診を促す啓蒙活動を３か所で行いました。地元平尾のお祭り『ひらぐら市場』天神での街頭活動、そしてパサージュ広場でのピンクリボンイベントへの参加。外に出て呼びかけをしたり模型を使って説明したりしていると、生の声が聞けて大変参考になることがあります。例えば、マンモグラフィ検査がとても痛いと聞いていて足を運べていない、検診料金が高いのではないだろうか、自己検診といってもどう触るのか分からないなど。これらはほんの初歩的な疑問で、私たちは難しい話ではなくごくごく簡単な疑問に答えるところから始めなくてはいけないのだと痛感させられました。また若い人たちが関心を持って模型に寄ってみえたのにも驚ました。そんな中でちょっと気になったこともありました。若いお嬢さんが話を聞いている間、彼氏は離れたところに立っていて、ご夫婦連れでも話を聞かれるのは奥様だけでした。確かに乳がんにかかる率は圧倒的に女性が多いのは事実ですが、そのことは決して女性だけの問題ではないのです。母として、妻として、家庭内で大切な存在であるひとが病気になるということは、家庭そのもの、そして夫婦にとっての問題なのです。専門病院の次の役割として、男性の方々へ正しい知識と啓蒙を行うことの重要性を感じた今年のピンクリボン月間でした。

及川病院ピンクリボン活動 ～オリジナルデザイン～

10月はピンクリボン月間です。ピンクリボン活動とは、アメリカの乳がんで亡くなられた患者さんの家族が「このような悲劇が繰り返されないように」との願いを込めて作ったリボンからスタートした乳がんの啓蒙活動です。シンボルマークのピンクリボンのデザインは活動団体によって異なりますが、ピンクリボンの願いである「乳がんで悲しむ人をなくす」という思いは共通しています。

及川病院は今年もピンクリボンデザインを職員から募集しました。
毎年のことなので、アイディアが尽きたよ…との声もちらほら聞こえてきましたが、全職員（もちろん医師も）が知恵を絞って描きました。

←その中から患者さんにもどのデザインがいいか投票してもらいました。

今年のオリジナルデザインはこちらに決定!!→
誰もが持っている一つの小さな思いやりから最初は始まり、それがやがてたくさんの思いやりとなって伝わっていくような、幸せな気分にさせてくれる素敵なマークです。

惜しくもオリジナルデザインには選ばれなかったものの、素晴らしいと評価された作品には特別賞も！

及川病院ピンクリボン活動報告 ～及川病院の取り組み～

及川病院では「乳がんの早期発見で命もおっぱいも守りましょう」をテーマに、一人でも多くの方に乳がんを知ってもらおうと、毎年さまざまなピンクリボン活動を行っています。

9月8日（木曜日）「乳がん早期発見を啓発するイベント」　大丸福岡天神パサージュ広場

当院の白石師長が乳がん認定看護師としての立場から講演を行いました。乳がんとはどのような病気かという話から、乳房モデルを使った自己検診法の指導などに多くの方が足を止められ、耳を傾けておられました。このイベントはフラダンス教室の方々が企画されたものであり、女性による女性のためのイベントという大変意義のあるものだと思いました。

10月1日（土曜日）ひらぐら市場

平尾駅前で平尾商店街主催のイベントが開催されました。お米や卵、野菜のつめ放題、飲食コーナー、和太鼓演奏などの催しが行われる中、及川病院ピンクリボン隊は本部の横を陣取り啓蒙活動をしてきました。乳がんの模型を設置し、どこに乳がんがあるかを実際に触っていただくと、「こんなに押さないとわからないのね」「乳がんのしこりにもいろいろタイプがあるんだ」などの感想が聞かれました。
ひらぐら市場への参加は二回目ですが地域活動の一環として貢献できたのではないかと思います。

10月7日（金曜日）天神ソラリアプラザ前・大丸福岡天神店前での街頭活動

ここでも乳がんの模型を触っていただいたり、拡声器を使っての呼びかけ、リーフレット配布などを行いました。
10代、20代の若い年代の方が興味深げに乳がんの模型を触り質問をされていたのが印象的でした。

10月8日（土曜日）「乳がん早期発見を啓発するイベント」　大丸天神パサージュ広場

先月に引続き大丸福岡天神のパサージュ広場にて行われた「乳がん早期発見を啓発するイベント」にて、当院の乳がん看護認定看護師白石師長が乳がんについての講演を行いました。華やかで女性らしいフラダンスステージと乳がん検診の話は、いずれも街行く女性の方の足を止め、たくさんの人が見入り、聞き入っていらっしゃいました。

10月16日（日曜日）ジャパン・マンモグラフィーサンデー（Ｊ.Ｍ.Ｓ）

ジャパン・マンモグラフィーサンデーとは、子育て・介護・仕事・家事などで忙しく、平日に病院に行けない女性の皆さまが、休日の日曜日に「乳がん検診」を受けられるよう、全国の医療機関とＮＰＯ法人Ｊ.ＰＯＳＨが協力して毎年10月第3日曜日に行っている取り組みです。当院もこれに賛同し、10月16日（日）に乳がん検診を行いました。

活動を通して皆さんの乳がんに対する関心の高さに驚きました。「乳がん検診はどこで受けたら良いの？」「今検診に行ってきました」「今度検診に行くんです」（検診に行く予定があるという方はかなりいらっしゃいました）中にはグッズ配りの前を一度素通りされたのに、乳がん検診の啓蒙活動と分かり戻ってこられる方も。一方でやはり関心のない方や「検診は痛そうだから行かない」「私はおっぱいが小さいから大丈夫」などという声も聞かれました。私たちの活動が一人でも多くの方の命とおっぱいを守ることに繋がると信じ、及川病院は今後もピンクリボン活動を続けていきます。

緩和ケア病棟では

　緩和ケア病棟では年間を通してホスピスでの生活を楽しんで頂ける様に、様々な行事を催しております。その中で、毎月地元の大学生がやってきて開く「落語会」についてご紹介いたします。
毎月、第３水曜日の午後から、歩ける患者様は元より、車椅子に乗車しながらの患者様、ご家族の方、ご面会にいらっしゃった方を観客として、４階の緩和ケア病棟談話室で開演です。
　ステージは簡易的にテーブルで壇上を作りその上に敷いた座布団に座ってお話しをして頂きますが、落語観賞される皆さんのお顔は、毎回どんなお話が聞けるのか・・？演題が気になられているようです。
　談話室に響き渡る第一声で落語が始まると、内容や面白さを求めていると言う空気より、学生さんの練習の成果を、我が子や孫が、失敗せずに終えられるかな・・・と、晴れ舞台を見守る視線に似た雰囲気にも感じます。
　今回は、演題「初天神」で毎年1月25日に天満宮で行なわれる年の初めの祭りに出かけた、父親と息子の絆を描いているお話でした。

終了後は　談話室でそのまま患者さんには一服して寛いで戴きますが、落語を終えた学生さんに感想をお尋ねしたところ､汗をぬぐいながら､「大人数じゃないけど緊張しました。僕の落語で元気が届けられたんでしょうか？　つい、熱くなって、僕が重かったせいなのか・・？ステージが揺れてましたよね。」とお茶を飲みながら、学生さんは恥ずかしそうに答えられ、未だ緊張が抜けきれない様子でその場を後にされました。
　今後も、月に1度の「落語会」でホッとする､気分転換の時間をお届けできればと考えております。

～　スタッフ紹介その３　医事課　～

及川病院医事課は受付、会計、入院業務、書類等の処理などおこない、情報管理士も含め８名にて日々頑張っております。
窓口での対応だけではなく、患者様への受診に至るまでの案内、予約の受付、変更などの電話対応、会計入力など窓口からは見えてない所での作業も行っています。待ち時間の短縮、少しでも不安を取り除ける様な環境づくり、心配り、気配りをモットーに他部署との連携をとり患者様やそのご家族との対応をスムーズに行える様頑張っています。
どうぞよろしくお願い致します。

連　載　　野村雍夫先生の“乳がんを知ろう”

第二十二回　センチネルリンパ節生検

顧問　野村雍夫

5. センチネルリンパ節生検

i）乳癌のリンパ節転移

分裂・増殖する乳癌細胞は周囲の組織に浸潤して塊(腫瘤)を作り、さらに血管やリンパ管に侵入して、リンパ節転移や遠隔の臓器(肺、肝、骨など)に転移します。乳癌の特徴の一つは、癌が腋窩リンパ節などの周囲のリンパ節に転移し、全身に拡大することです。早期の乳癌では腋窩リンパ節のみの転移や転移がないことが少なくありません。乳癌の腋窩リンパ節転移の有無、その程度(転移リンパ節数)が将来の再発を予測する最も重要な因子です。たとえば、リンパ節転移なし、転移リンパ節数を１～3個、4個以上に分けると、乳癌の再発、死亡のリスクが明らかに違います。したがって、リンパ節転移陽性の乳癌患者には強力な術後補助療法が必要と考えられます。

このように腋窩リンパ節転移の情報は乳癌治療において重要でありますが、これまでは、手術前に腋窩リンパ節に転移があるか否かを確認することは不可能でした(触診で腋窩リンパ節を触知し、細胞診などで確認する場合以外には)。郭清した腋窩リンパ節を一つづつ病理学的に検査し、転移があるかないかが初めてわかります。

腋窩リンパ節郭清はリンパ節組織を周囲の脂肪などと一緒に、血管、神経の周囲まできれいに一つの塊として摘出する方法です。この方法は19世紀後半のハルステッド以来の標準的な手術法でした。比較的進行した、転移したリンパ節を摘出することが、将来の腋窩リンパ節転移巣からの再発を防ぎ、生存率を向上させると考えられてきました。さらに、乳癌細胞が転移している可能性があるリンパ節を予防的に摘出して、乳癌の取り残しをできる限り減らす目的で行われます。現在でも、転移陽性の場合には郭清が必要ですが、腋窩リンパ節郭清を行うと、合併症として、肩関節の運動障害で腕が上がりにくくなり、また、腕が腫れるリンパ浮腫が起こります。小さな神経を切る必要があることがあり、腋窩近くの腕の内側が痺れたり、痛みが出ることがあります。これらが起こることは稀ですが、治りにくく、長期間続きます。

腋窩リンパ節に転移がなければ、郭清が不必要となり、上述の合併症も防げます。しかし、腋窩リンパ節転移の情報は乳癌治療のためには絶対必要です。その解決法の一つがセンチネルリンパ節生検です。